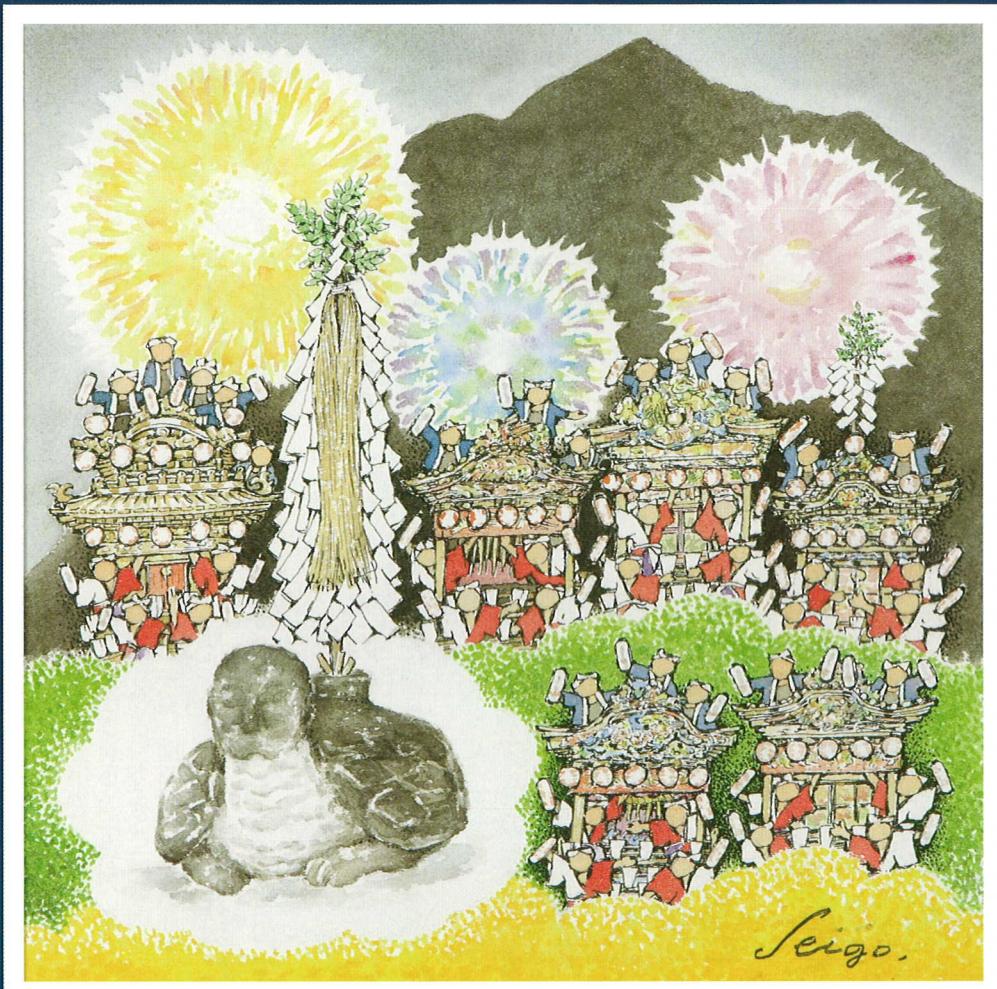


# 秩父乃杜

秩父神社社報  
柞乃杜(ははそのもり)

第 42 号

平成22年12月3日  
(大 祭)



喜び  
と  
笑顔

乙女らの声

山車を乗る

秋葉の花を

浮き反る

## 人のいのちは誰のもの？

今どきの人は、「いのちは自分だけのもの」「だからいのちを大切に」と当然のように言います。でも本当に「人生は自分だけのもの」なのでしょうか？

どんな生きものも、親からいのちを授かり、そのいのちを産んだ子にまた伝えるからこそ生きるもの。いのちは自分だけのものではないのです。

それに生きることは、ほかの生きものを食べること。ほかの動植物のいのちを頂いて生かされること。だから人生は、ほかのいのちとも繋がっている。

日本人は、昔から「山川國土」から「草木虫魚」に至るまで、万物のいのちを頂いて生かされていることに感謝し、神々ともほとけともして祭つてきました。

人の一生は、こうして祖先から子孫へと連なり、自然の万物に生かされている。だから、「いのちは自分だけのもの」では、決してないのです。

解説 秩父神社(41)

權禰宜  
甲田 豊治

社殿彫刻が伝える文化

平成二十三年は辛卯年である。兎と言えば本殿東側「つなぎの龍」の下段に春の野に跳ねる「あ・うん」のウサギの彫刻が見える。

昭和四十一年秋の台廻の被災から  
社殿復旧改修工事がはじまり、それ  
に伴い彫刻類なども調査が行われ、  
その中で、このウサギの彫刻裏面に「鬼  
角杖かくのつえ 龟毛払子きもうのぼっす

た」という。この事は、既に社報17号  
の神社解説の中紹介されているが、  
その意味するところは、「この世にあ  
り得ない物事のたとえ」ということ  
である。

この奇瑞をもたらす彫刻と同様に、  
社殿西側にも大変目出度く、福徳を

### 社殿東側うさぎ彫刻裏面の墨書き

物語である。(西尾市岩瀬文庫コレクションから引用)  
更に、この物語の中でどのようにして「福神が相撲をとる」に至ったかを詳しくその物語の流れを、「いまは昔むかしは今」4巻春・夏・秋・冬(福音館書店)から引用すると、

いくうちに、「梅津の長者」という物語に出会つたのである。この「梅津の長者」の物語は次のような内容である。

昔山城国の梅津の里に、大変貧しくも正直な心をもつた左近丞とその妻がいた。ある日、不思議な老人に親切にしたことがきっかけで、左近丞の家に七福神が次々と訪れ、貧乏神を追い出して襲いかかる盜賊どもも撃退し、七福神は歌舞管弦の宴をもよおし、夫婦に祝福を授けた。  
という物語である。(西尾市岩瀬文庫)

授ける彫刻が施されているので紹介したいと思う。

写真をご覧いただくと、その彫刻はふくよかな体格をしている大黒様と、布袋様が力くらべの取り組みをしており、その傍らで福禄寿が軍配を持ち行事をつとめ、その背景には吉兆の縁起物と、これまた縁起の良い末広がりの植物がみえる。

この福神が相業を取る場面こそは、

が追い出されると不思議なことがあります。次から次へとやつてくるのである。



社殿西側の「福神相撲」

い人と聞いてこの家を住み家にしようと思つて来たと言ひ。鹿に乗つた寿老人と鶴に乗つた福禄寿の二人は、「正直の頭に神宿」と言ひ、正直者には福禄と寿命を授けようと言つてきましたと云つ。

「夷に日本度い。これほど尊く靈験あつたかな神々のお集まりなのにおもてなししないといつ法はない。」と夷三郎は、鉢に水を満たし、釣針を下し大きい鯛を釣り上げ、「これを肴に一杯いただきましよう。」と言つ。すると、大黒天も「私もおもてなしをしましよう。」と打出の小槌で庭一面に酒や御馳走を広げたのである。すると、門を叩く音がして出て見ると「私は、震旦の徑山寺の布袋和尚だ。おまえの心が清らかで、仏の御心にかなつたからここへ來たのだ。」と大口を開けてカフカラと笑つていたので

長者 物語  
この物語から当社社殿彫刻の「福  
神相撲」も運気をもたらす方角に見え、  
「真つ直ぐな心根の持ち主には福德  
を授ける」という意味がうかがえる  
のである。是非皆さんも、あらため  
て「梅津の長者」の物語を思い浮か  
べながら、「福神相撲」の彫刻をご覧  
下さい。平成二十三年は卯年、「兎角  
亀毛」の一層の御利益があるかもし  
れません。

このようにして、大黒様と布袋様が相撲を取った場面になつた訳である。この後、左近丞は梅津の長者となり未永く幸せに暮らしたという。「悪疫が退散し運が開けて福を招く」という何とも縁起良い面白い「梅津の長者」物語。

あつた。庭に勢ぞろいした七人の神々は酒宴をはじめ、盃も三三九度まで巡り、寿老人は大黒の盃を受けながら「名高い大黒舞いを拝見する絶好の機会。「一さし舞つていただきたい」というと大黒天は「こういう日出度いお座敷では、おことわりもできません」と舞ひはじめる。今度は舞い終わつた大黒天が布袋に所望する。「布袋和尚は肉つきがよく、たくましい。さそかし力持ちでしような。相撲を一番どうです。」布袋は「座興にやりましよう」と互いに技を尽くして三番まで取つた。満座の人びとはやんやんやんやと大いに笑うに興じた。

## 「草木虫魚に命あり」日本人の生命倫理

宮司 菌田 榮

### 一 「諸虫供養」という習俗

一昨年春のある会合で、日本の民俗音楽を専攻される小島美子先生（国立歴史民俗博物館名誉教授）と四方山話を交わした折りに、たまたま奥会津に残る「虫供養」の話に心を打たれて後日頂戴した。先生寄稿の福島民報のコラム記事は次のような文章でした。

大沼郡三島町早戸地区の方々が毎年行つてある虫供養について『文化福島』という雑誌の昨年十二月号が詳しく紹介している。昔から行われてきたものだが、何と耕作のために駆除した虫たちの靈を弔う行事だというのである。この町には虫送りなどの行事もあるのだが、駆除してきた小さな虫たちにも生きる命があるから「殺してしまうのが申し訛なく感じる」という。虫供養は、やむを得ず殺してしまった虫の靈に、静かに眠つてほしいといふ願いが込められている」というのである。何と優しい心だろうと私は胸を打たれた。そういえば宮崎県の山村の椎葉村では、焼き畑のために火をつける前に、山の神に火をつける許しを乞うだけでなく、小さい虫たちも早く逃げるようになると呪文を唱えるのである。山々の恵みに深く支えられてきた人々はずつと昔からそれに感謝し、自然と共に生するというよりも、自分たちは自然によって生かされてきたと感じているのである。だから虫たちの命も大切なものと感じ、考えてきた。

（福島民報「日曜論壇」平成17年1月16日）

小島先生は、続く文章で早戸地区の虫供養の様子を記し、それに類する習俗にも言及して現代にもさまざまに残るアニミズム的心情を指摘したあと、

「もしも世界中の人々が日本人のように異教に対し

て寛容な心をもち、万物に命を感じて大切にするならば、世界は平和になり、地球の環境も守られるであろう。」と結んでおられるのです。

かねて日本人が共有する万物生命への心情を問うてきいた私は、この虫供養をじかに学びたいと、昨年九月に一人の学友を誘つて現地を採訪してみたので



○虫供養行事

した。

あいにく旧暦十月十日の初冬の行事ということで、じつさいの虫供養を採訪できたわけではないのですが、村はずれの墓地の一角にある供養塔を確認し、一軒の老夫婦にはじっくりと話を伺うこともでき、また唯一残る例というのが信じ難く、早戸村の菩提寺で毎年の虫供養に掲げる供養札を頂くという隣り町の高林寺を訪ねると、やはり墓地の一角に「諸虫供養塔」があつて、盆や彼岸に檀家が墓参りする折にはこの石塔にも参るのが常で、特に日を定めての行事は廃れても、こうした慰靈の名残りは会津一帯に見られることを確かめることができました。

そこで、あらためて「虫供養」の習俗を全国に求めてみると、たとえば知多半島の農村部や大分県南部の佐伯市など、やはり各地に現行の事例を学ぶことができました。

私は、その詳細は別にして、これは単なる心情として片づけてはならぬと実感しました。日本人として疎かにしてはならぬ命への率直な心情で、それなりの現実だと考えたのです。

なぜなら、現代でも各種の魚類供養から動物供養、筆供養、針供養、人形供養にいたる習俗行事はもとより、広くシロアリなどの病害虫駆除の業界や大学医学部での解剖人体をはじめ各種研究施設での実験動物など、およそ先端科学技術の研究にも及ぶ、いわば万靈供養の事例は現代の日本社会にこそ枚挙に暇あらずだからです。

### 二 「草木供養」という習俗

ところが最近、もう一つの注目すべき「草木供養」という宗教習俗が東北地方の山形県米沢盆地に現存することを知り、改めて現地に赴き実態を確認することができたのです。

一般にいう「草木塔」

とは、「草木供養塔」とも「草木供養經」、「山川草木悉皆成仏」などという碑文が刻まれている石塔で、国内に160基以上の存在が確認されています。近代の明治・大正時代までは米沢にだけ21基が建立されたが、昭和・平成時代になると、同地に46基のほか県内他地方に47基ばかり、県外の東京都内10基をはじめ京都や奈良などにも合計20基が新たに増加するなど、いっぽくに分布が拡大するのです。このような草木供養塔が、江戸時代中期にまず米

沢盆地の山間部に建立されて以来、近現代を通じて山形県から全国にまで新たな建立が拡大してきました。その建立動機には歴史的な起源から現代的意義にいたるまでさまざま研究と解釈がなされていますが、本稿では、ただその最古の草木塔と最近の建立事例との二つだけの例を紹介するにとどめます。

その一つは、安永九年（一七八〇）に田沢地区に建

立された2基の内の一つ、口田沢（くちたざわ）の大明神地内に現存する草木塔には、その正面に「一佛成道観見法界 草木国土悉皆成佛」と刻まれているという事例です。そしてこの文言は、平安末期の播磨に住む天台学僧のひとり道邃の著書『摩訶止観論弘決纂義』卷一に見ることができ、また鎌倉初期の叡山の学僧、証眞の『止観私記』にも同じ文言が見えるということだけ指摘しておきます。もう一つは、「やまとがた草木塔ネットワーク」が紹介している山形県酒田



#### 【表紙絵解説】

この度の表紙絵は、秩父市太田品沢に在住される石橋城吳（いしばしせいご）先生の作品を掲載させて頂きました。

秩父のシンボルとして聳える武甲山を背景に、夜祭を象徴する妙見さまの姿である大幣と亀ノ子石。また、絢爛豪華な六台の屋台・笠鉾。そして、冬の澄み渡る空に響き輝く百花繚乱の花火。まさに「夜祭」そのものが画かれた作品であります。

石橋先生は、幼少の頃から絵を画くのが好きで、小学生では特に漫画に熱中し、13歳の時（昭和30年）に光文社雑誌「少年」に漫画が掲載され特別賞を受賞されたのをきっかけに、昭和54年東京新聞「カット88展」に掲載。昭和60年 秩父地場産センター・シンボルマーク採用。また個展としては、昭和62年「秩父札・花のスケッチ展」。平成3年「望郷・野草原画展」。平成8年、「秩父つ言葉あぢやむ詩だんべ絵展」語呂歌編から始まり、平成21年までに7回開催されております。更に、NHK・テレビ東京・秩父ケーブルテレビなどでも、秩父のお国言葉や遊びを紹介し、古き良き秩父の文化を語り伝え、意欲的に活動されております。この度の表紙絵画は、実は夜祭シリーズのうちの一枚で、他に5作品描かれており、平成20年埼玉西北部郵便局「秩父夜祭」切手に採用された作品でもあります。



奥会津早戸集

市の日枝神社境内に平成十九年（二〇〇七）六月建立の「草木食の塔」とその神職による供養祭の事例です。それによると、この塔は地元で漬物を商う老舗「佐徳」が建立し毎年の六月十八日に供養祭を行なつて、塔の裏側に刻まれた御奉納趣意書には、「天地自然の恩恵」と題して「山川海野の幸に感謝し、生かされて生きてきた道を思い、その精霊を供養・鎮魂いたすことを目的に、ここに感謝祭を執り行なわせて頂きます。」と書かれているのです。

現代の殺伐たる「無縁社会」に頻発する無惨な事件を思うにつけ、こうした万能平等の生命倫理の、心優しい日本人の伝統を顧みることが大切ではないでしょうか。

○



#### 【表紙短歌解説】

冴え返る秩父の夜を山車を曳く  
乙女らの声高く響けり

この度の表紙の短歌は、埼玉県上尾市在住の細井君雄様（本名 鈴木道明）の作品を掲載させて頂きました。

この短歌は、朝日新聞埼玉版「埼玉文化」欄に掲載された作品の中から選考され、平成16度朝日埼玉文化賞正賞に輝いた作品であります。  
細井様は、埼玉県内の高等学校で長年教鞭をとられ、部活動では山岳部を受け持ち、新人生歓迎登山では当社神体山である武甲山に登られ、また浦山キャンプ場や長瀬、三峯の山々にもよく生徒さんと一緒に訪れたそうです。  
短歌は、大学生時代から日記代わりに其の日一日のことを振り返り作り始め、今までに7回開催されております。更に、NHK・テレビ東京・秩父ケーブルテレビなどでも、秩父のお国言葉や遊びを紹介し、古き良き秩父の文化を語り伝え、意欲的に活動されております。この度の表紙絵画は、実は夜祭シリーズのうちの一枚で、他に5作品描かれており、平成20年埼玉西北部郵便局「秩父夜祭」切手に採用された作品でもあります。

### ◆境内菊花展について



七五三詣で賑わうご社頭では、本年も十一月一日より十五日まで、秩父郡市菊花連盟（会長：町田勇佐久）による第四十一回選抜菊花大会が開催されました。出品された菊花は、秩父郡市の菊花愛好会の中から特に選りすぐりの作品を展示しているということで、菊花展の開催を心待ちしている人も少なくありません。

春の桜と秋の菊は、我が国を代表する花として広く国民に親しまれているところですが、菊花が皇室の紋章として用いられていることから、事実上の「國せん。

「秩父宮妃勢津子殿下はご自身のお印としても菊を用いていらっしゃいました。妃殿下には明治四十二年九月九日、重陽の節句のお生まれでいらっしゃいましたが、旧暦ではこの日が菊の咲く季節にあたることから菊の節句とも呼ばれており、ご自身のお印にも用いられたのではないかと推察致します。

かつては毎年、秩父宮邸に菊花の献上を行つておりましたが、現在は当社の秩父宮記念室のある平成殿前に献花されるようになりました。秩父宮両殿下を偲ぶ花とも言えるでしょう。



### 氏子青年会報告

#### ◆勉強会開催

氏子青年会副事業部長 穂苅 実

十一月十日、参集殿及び社殿に於いて甲田豊治権櫛宣を講師に「秩父神社社殿彫刻が伝えるいにしえの文化」と題し、会員六十二名参加の下勉強会を開催しました。

先ず参集殿では「三妙見神事」と伝わる春の「御田植祭」から始まり、夏の「川瀬祭り」、秋の収穫期を終え、一年を締めくる例大祭である冬の「夜祭り」の年間祭祀。また

「秩父大宮妙見宮社殿の変遷」などについての講義を頂きました。その後、普段では夜間滅多に入る事の出来ない境内へと移動し、本殿彫刻をライトアップしながら個々に説明を頂きました。

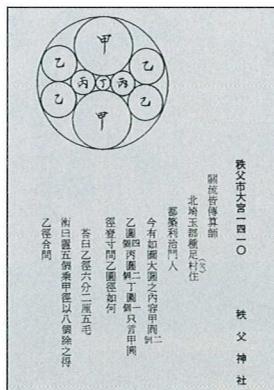
なかでも、社殿彫刻の「サル」・「キジ」・「桃の仙人」・「狛犬」と「桃太郎」の物語の繋がりや、「瓢箪から駒」・「鯉の滝登り」・「登龍門」などの語源を意味する彫刻類にもいにしえの人々の文化の高さも知ることができました。



「蝦蟇仙人・李鉄拐・昇龍・降龍・高仙人・虎の子渡し・鬼門の雷神」など配置されての

この様に当秩父神社にはとても貴重な彫刻が沢山ある事を改めて知り、「秩父神社を中心的に文化的なマチ造りを推進する」と言う当氏子青年会の目的からも今後も更に勉強し、後世に伝えるべきものと思いました。例大祭前の大変忙しい中にも関わらず大勢の方に参加頂き、盛会に出来ましたことに感謝申し上げます。





◆秩父神社「算額」のこと



**算額**というものをご存知ですか。算額とは、江戸時代の和算の研究や和算の勉強の祈願のために、神社仏閣に奉納した絵馬の事であります。

この度 東京都墨田区在住の墨田算額研究会会長の金子宏様が来社され、図のような「算額」が秩父神社に現在も奉納せれているかとの問い合わせを頂きました。しかし、その「算額」は額殿にも見当たらず又これに関する資料もなすことから残念な回答しかできませんでした。金子様が、お持ちいたいた資料は、昭和三十年代に埼玉県内の神社仏閣に伝わる「算額」の所在を調査し、埼玉県立図書館編集により昭和四十五年（一九六九年）に出版された「埼玉の算額」

◆第30回「松月古流いけはな展」  
当社権利宜の守屋通夫（華名・宗通）が家元を務める華道・松月古流は、恒例の五月三日の秩父宮祭に際し、平成殿に花を添えて頂いており、この献華に併せ来春は「いけばな展」が開催されることになりました。

◆第30回 松用古流いけばな展

皆さんも是非紙と鉛筆を持つて江戸文化の謎解きに、お参りされては如何でしょうか。

からの資料と伺いました。唐突かもしれないが、この「算額」は現存しませんが、当社社殿の彫刻類は、実は「和算」を用いて構成されているように感じられます。十一月三日に放送されたNHKテレビ歴史秘話ヒストリアの「ちよんまげクイズ合戦！」江戸の彼氏は数学がお好き！という「和算」をテーマにした番組のエンディングで出題された「虎の親子」の問題が、当社の拝殿正面にある「子宝・子育ての虎」（虎の子渡し）とほぼ同じ内容なのであります。この「和算」に関しての歴史秘話が当社彫刻類にもまだまだ沢山眠っているかもしれません。

九月	五月	小鹿野講
松本	守講元外百十三名	
九月十一日	荒川妙見講	
浅海	忠講元外八十二名	
九月十二日	上町講	
十月	平塚功一講元外百九十六名	
二日	上宮地講	
十月三日	中村講	
今井奎吾講元外百八十三名		
高橋信一郎講元外一百九十五名		
十月三十日	東町妙見講	
三友直彦講元外百七名		

◆秩父神社妙見講



側に鎮座する天神地祇社廻廊が会場となり、花の香りにつつまれる神苑となる事と思います。多くの皆様の御来社をお待ち申しあげております

◆ 柚乃杜神前結婚式報告

◆杵乃杜神前結婚式報告	
本庄市中央	神倉 武・朋子様
秩父市野坂町	四分一務武・由美子様
静岡県静岡市	我妻正章・詳子様
秩父市荒川上田野	山中 健・裕美子様
秩父市下影森	中務俊之・律子様
秩父市黒谷	内田健太郎・理絵様
秩父市上野町	木暮 仁・美奈子様
東京都大田区	佐藤悦基・裕美子様
岡山县新見市	杉本崇志・昭江様
秩父市下影森	中山貴久・知恵子様
秩父市人那	田沼直純・律子様
秩父市寺尾	小澤智之・貴代様
横瀬町横瀬	加藤健太・史絵様
秩父市中宮地町	浅見哲也・奈央子様
秩父市上野町	宮前拓朗・奈々江様
秩父市日野田町	吉本峰登・望 様
皆野町皆野	丸山達也・有希様
秩父市金室町	永末く幸せな家庭をあ築き頂きますよつ お祈り致します。



遷宮で  
結ぶ人の輪  
心の輪



秋の恒例行事と  
して毎年企画し  
て参りたいと思  
いますので、ど  
うぞ次回もご期  
待下さい。

この短冊展は、  
秋の神苑を彩る催しとし  
て、はじめて末社七十五社に俳句を  
したためた短冊を飾る展覧会が開催  
されました。

今回の短冊展では「俳句結社あかね会」  
が主催し、10月15日から月末  
までの半月の期間展示され、秩父を  
訪れた多くの方々にご覧頂きました。  
展示初日である15日には、恒例月  
次祭の祭典に、あかね会の方々も昇  
殿し参列して頂きました。

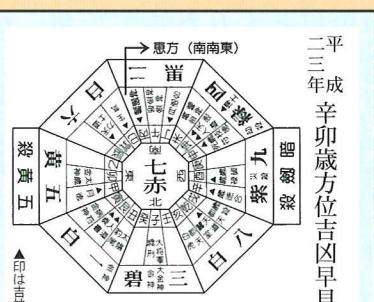
俳句結社あかね会は、主宰 岡田  
壮三氏が結成し、俳誌「あかね」を  
昭和49年8月に創刊し以来号をかさ  
ね、平成7年11月に主宰の岡田壮三  
氏の逝去に伴い、その遺志を受け継  
ぎ竹内弥太郎氏が継承。平成22年10  
月号で創刊以来37年を数え、通巻四  
三五号を刊行し、現在に至る団体  
であります。

## ◆「俳句結社あかね会」短冊展

この度、秋の神苑を彩る催しとし  
て、はじめて末社七十五社に俳句を  
したためた短冊を飾る展覧会が開催  
されました。

今回の短冊展では「俳句結社あか  
ね会」が主催し、10月15日から月末  
までの半月の期間展示され、秩父を  
訪れた多くの方々にご覧頂きました。  
展示初日である15日には、恒例月  
次祭の祭典に、あかね会の方々も昇  
殿し参列して頂きました。

俳句結社あかね会は、主宰 岡田  
壮三氏が結成し、俳誌「あかね」を  
昭和49年8月に創刊し以来号をかさ  
ね、平成7年11月に主宰の岡田壮三  
氏の逝去に伴い、その遺志を受け継  
ぎ竹内弥太郎氏が継承。平成22年10  
月号で創刊以来37年を数え、通巻四  
三五号を刊行し、現在に至る団体  
であります。



● 本年の厄年 (この前後の年が前厄・後厄に当たります)	
男性	昭和62年生まれ 25歳
	昭和45年生まれ 42歳
	昭和26年生まれ 61歳
女性	平成5年生まれ 19歳
	昭和54年生まれ 33歳
	昭和50年生まれ 37歳

平成二十三年は、皇紀二六七年  
辛卯(かのと)年です。  
二十三年は、上記したような  
方位吉凶になり、厄年の方の  
生まれ年も表のようになります。  
また、九星では一白水星・三碧  
木星・四綠木星・七赤金星の方々  
の方位が悪いとされます。ご自  
分の生まれた星が凶方に巡って  
くる方は、厄除・方位除け祈願  
をお薦め致します。詳しくは神  
社授与所にご相談下さい。



ズ4冊を当社に奉納して頂きましたので、  
ご報告申し上げます。

橋城吳先生の「秩父夜祭シリーズ」  
絵画「お旅所」の他  
に「神幸路」「錐の華」「屋台囃子」「太鼓轟  
く」「団子坂」の計六点と先生が出版された  
「あちやむ詩だんべ絵」シリ

松本家は代々、東京都府中大國魂神

社例祭に、当社を祀る四之宮輿守の重

責を担つてこられました。

稻城市は「妙見信仰」に大変縁ある

ところで、「百村妙見宮」や「よみうり

ランド内・妙見堂(旧国宝妙見立像)

と四之宮に結ばれ

る妙見様との不思

議な御縁を感じて

なりません。

これからも、当

社大神様を御守り

頂く重要な輿守職

をお務め頂きます

と共に、松本家の

御縁をお祈り申し

上げます。

恵比寿様が行事をして

いる「三福神相撲図」の二作品で

あります。そして、

この十二月十四日から二十一日の期間、

川越市で生まれたと伝わり、美人画を

画く浮世絵師で知られる喜多川歌麿の

肉筆画が、今年七月柄木市において、

発見され話題となつたことをご記憶し

ている方もいらっしゃると思います。

その発見された作品とは、「鍾馗図

と七福神の大黒様と布袋様が相撲を取り、

権威が行事をしている「三福神相

撲図」の二作品で

あります。そして、

この十二月十四日から二十一日の期間、

柄木市文化会館で特別に公開されると

のことでの興味のある方は是非ご覧い

ただきたいと思います。

歌麿も書いていたというこの「福神

相撲」平成23年は、この日出度く福徳

を授けていただけの駄刻にあやかつて、

「兎角亀毛」すことをお祈り致します。

## ◆「秩父夜祭」絵画奉納

この度、表紙で掲載致しました石  
橋城吳先生の「秩父夜祭シリーズ」  
絵画「お旅所」の他  
に「神幸路」「錐の華」「屋台囃子」「太鼓轟  
く」「団子坂」の計六点と先生が出版され  
た「あちやむ詩だんべ絵」シリ

松本家は代々、東京都府中大國魂神

社例祭に、当社を祀る四之宮輿守の重

責を担つてこられました。

稻城市は「妙見信仰」に大変縁ある

ところで、「百村妙見宮」や「よみうり

ランド内・妙見堂(旧国宝妙見立像)

と四之宮に結ばれ

る妙見様との不思

議な御縁を感じて

なりません。

これからも、当

社大神様を御守り

頂く重要な輿守職

をお務め頂きます

と共に、松本家の

御縁をお祈り申し

上げます。

恵比寿様が行事をして

いる「三福神相

撲図」の二作品で

あります。そして、

この十二月十四日から二十一日の期間、

川越市で生まれたと伝わり、美人画を

画く浮世絵師で知られる喜多川歌麿の

肉筆画が、今年七月柄木市において、

発見され話題となつたことをご記憶し

ている方もいらっしゃると思います。

その発見された作品とは、「鍾馗図

と七福神の大黒様と布袋様が相撲を取り、

権威が行事をしている「三福神相

撲図」の二作品で

あります。そして、

この十二月十四日から二十一日の期間、

柄木市文化会館で特別に公開されると

のことでの興味のある方は是非ご覧い

ただきたいと思います。

歌麿も書いていたというこの「福神

相撲」平成23年は、この日出度く福徳

を授けていただけの駄刻にあやかつて、

「兎角亀毛」すことをお祈り致します。

## ◆ 大國魂神社四之宮輿守来社

ここに社報柞乃杜第42号夜祭り号をお届け致します。

この度の神社解説のなかで紹介され

た「福神相撲」に関連して、宝暦三年(1753年)に武藏國入間郡川越宿界隈(現

川越市)で生まれたと伝わり、美人画を

画く浮世絵師で知られる喜多川歌麿の

肉筆画が、今年七月柄木市において、

発見され話題となつたことをご記憶し

ている方もいらっしゃると思います。

その発見された作品とは、「鍾馗図

と七福神の大黒様と布袋様が相撲を取り、

権威が行事をしている「三福神相

撲図」の二作品で

あります。そして、

この十二月十四日から二十一日の期間、

柄木市文化会館で特別に公開されると

のことでの興味のある方は是非ご覧い

ただきたいと思います。

歌麿も書いていたというこの「福神

相撲」平成23年は、この日出度く福徳

を授けていただけの駄刻にあやかつて、

「兎角亀毛」すことをお祈り致します。

すことをお祈り致します。

## 編集後記